

交叉輸血を行ないうるなど赤血球寿命測定法としてきわめて有用であると思われる。

VII. 腎およびレノグラム

座長 新城之介教授 (日医大)

88. 婦人科疾患 (子宮癌を除く) の尿路変化の検討

—RIR による観察—

三谷 靖 宿輪亮三 関 智己

蘇 敏彬 沢 哲一郎

(長崎大学産科婦人科)

子宮癌を除く卵巣腫瘍 (卵巣癌 6 例, 卵巣嚢腫 10 例うち 4 例は巨大嚢腫), 子宮筋腫 11 例, 子宮脱 2 例の婦人科疾患患者 30 例の尿路変化を radioisotope renogram で観察を驗した。

卵巣癌の場合, 下部尿路から上部に及ぶ変化を示す例が多く, とくに腹水の著明な症例ではその傾向が大きいく, 尿路障害が一部腹水増加に二次的影響を与えていると思われる。同じ卵巣腫瘍でも悪性でない嚢腫では, 腹腔全体を占めるような巨大な場合でも尿路に変化を現わさぬ例が多く, たとえ障害があっても軽度の排泄障害を示すもので, ときに障害側がその腫瘍発生側あるいは腫瘍の周囲癒着と一致するのを認めた。子宮筋腫の場合, ほぼ嚢腫例と同じことがいえるが筋腫の大きさよりもむしろ小骨盤腔での筋腫発生部位または周囲臓器との癒着が尿路変化に関与していると思われ, 子宮頸部筋腫の 1 例に著明な偏側性の尿路障害を認めた。子宮下垂あるいは脱は尿路障害と非常に関連があり, その下垂または脱の程度によってその尿路変化が増強するのを認め, いずれも renogram 上著明な排泄遅延像を示した。

以上子宮癌を除く婦人科疾患においては高度な尿路変化をきたす卵巣癌, 癒着性良性腫瘍, 子宮脱等があるが, なんら変化をきたさぬ場合が比較的多いと結論づけられる。

*

89. 婦人科領域における Renogram の検討 (第 2 報)

岩井正二 福田 透 塚本隆是 ○峯 博一

(信州大学産婦人科)

Renogram は Winter らの発表以来尿路系の screening test として各科領域において応用せられ, 泌尿器系と密接な関連性を有する当科領域においてもきわめて

価値ある検査法として使用されている。われわれも子宮頸癌患者を主要対象に検討を行ない, その成績の一部はすでに第 4 回の当学会において報告したが, 今回は頸癌術後尿管腔瘻例, 再発例等につき renogram による 2~3 の検討を実施したのでその大要につき報告する。

〔尿管腔瘻例〕 8 例についての成績は以下のごとくである。

①発生側にはいずれも高度の排泄障害が認められ, さらに経過とともに腎機能は次第に悪化する傾向がみられた。また自然治癒例の大部分はこの機能癱絶が主要因と考えられた。

②手術療法 (Boari または Sampson 氏手術) により一時的には機能の回復をみるが, 4 例の追求例中 3 例はおそらく手術部位の癒着と考えられる尿管閉塞をきたし腎機能癱絶にいたったと推測されるので術後機能回復例も慎重なる経過観察の必要性を痛感した。

〔再発例〕 10 例の検討成績は以下のごとくである。

①骨盤腔内にその徴候が認められた症例では, その部位に一致して renogram 上でも著変が認められたが, 遠隔転移のみの症例では著変はみられなかった。

②例数は少ないが退院時との比較可能であった 2 例をも含め骨盤腔内再発時には著明な renogram の変化をきたす例のみられることより renogram による一定間隔の追求は再発の補助診断にある程度参考になる場合があると考えられた。しかし手術例では非再発例でも著変をきたす症例もあるのでこの点慎重なる態度が必要と思われた。

*

90. ¹³¹I-Hippuran 体外計測法による腎血流量率について

新城之助 吉村正治 原 一男

赫 彰郎 布施喜八 ○酒井 久

菊池太郎 長田純男 小原洋右

(日本医科大学新内科)

心拍出量の変化に伴ない相対的に変動する腎血流量の病態生理学的意義を追求するには現在方法論に難点があるため, ¹³¹I-Hippuran を用い, RI 体外計測法により